

経営比較分析表（令和6年度決算）

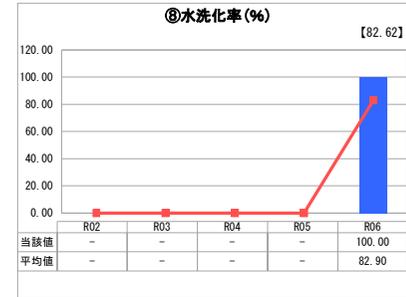
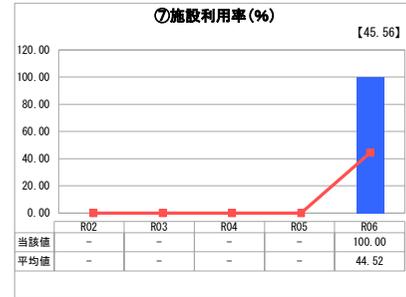
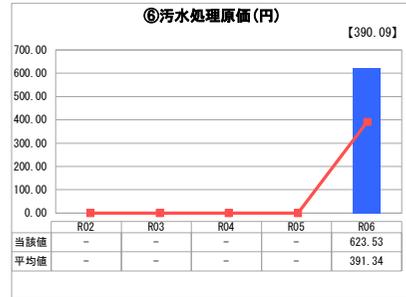
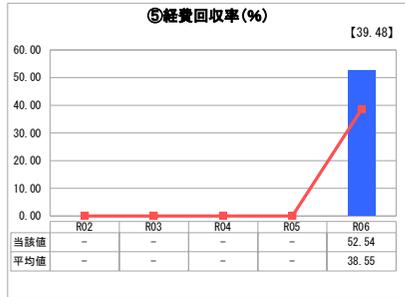
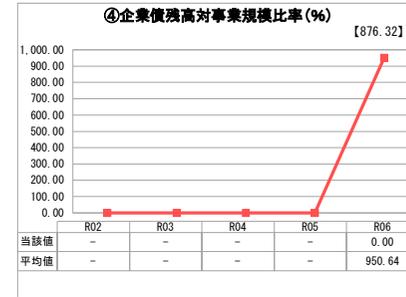
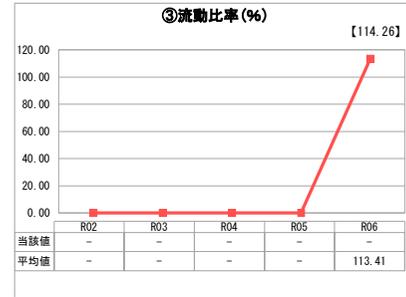
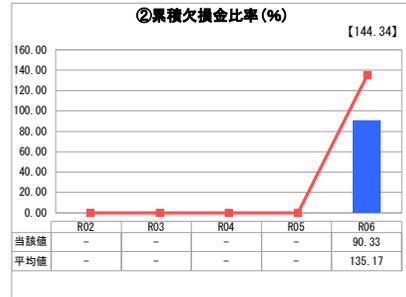
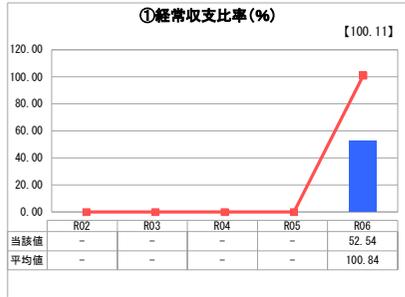
山形県 鮎川村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	100.00	0.72	100.00	3,720

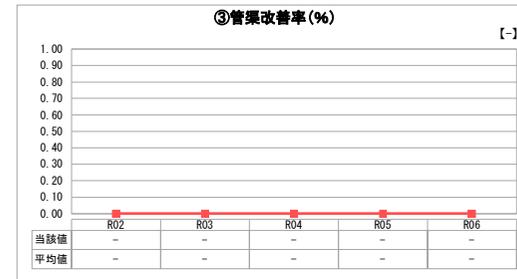
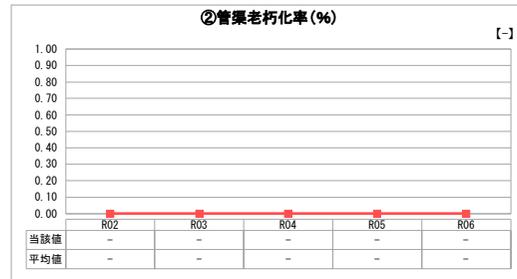
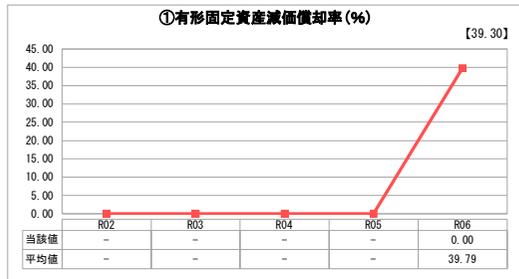
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,659	122.14	29.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
26	0.01	2,600.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析標

1. 経営の健全性・効率性について

専任の職員を置かず人件費を抑制するなどしながら、農業集落排水事業と一体的に経営を行うことで経費を抑えている。しかしながら、維持管理費を料金収入で賄えていないことに加え、一部修繕も発生したため経常収支比率や経費回収率が100%を下回り赤字となっている。農業集落排水事業と同一会計となっているため、当事業単体への一般会計からの繰入は行っていない。人口減少に伴う料金収入の減少や維持管理費の増加により、今後も累積欠損金及び汚水処理原価は大きくなっていくと予想される。

2. 老朽化の状況について

平成7年度の供用開始から20年以上が経過しているが、定期的に点検・修繕を行うことにより大きな故障を防止している。今後更新時期がくればダウンサイジングやより最適な処理方法の検討が必要である。

全体総括

今後は使用人数の減少も見込まれることから、ダウンサイジングや最適な処理方法を検討していく。また、設備の老朽化対策として、重要度や劣化状況を踏まえた優先順位付けを行い、国庫補助制度や地方債を活用しながら、将来負担の平準化に努める。
技術職員の確保が困難となっていることから、業務の効率化・省力化を進めるとともに、人材育成の強化に取り組む。
経費削減努力を継続するとともに、収支計画からシミュレーションしたうえで、将来の更新需要を見据えた適切な料金水準の検討を行い、経営の安定化に繋げていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。